

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームさくら
(ユニット名)	八重ユニット
所在地 (県・市町村名)	松阪市下蛸路町376-1
記入者名 (管理者)	久野 美文 尾花 侑哉
記入日	平成19年11月26日

地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	さくら福祉会の理念である安心・安全・愛情を基本とし、引継ぎや会議時には運営規定の運営理念を確認している。定期的に勉強会をもち法人の理念を明確にし、それに基づきケアにあたっている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎回サービス担当者会議時や引継ぎ時に理念の確認を行い利用者さんのその人らしい生活を共に作り上げていける様に取り組んでいる。理念を具体化し、運営上の方針や目標を職員に日常的に話をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレット、ホームページ、運営規定、重要事項に記し、利用者家族等にも分かりやすく説示している。家族さんの面会時にも分かるように玄関に明示してある。園外広報誌を発行し、近隣地域へ理解を深めて頂けるように、努力している。地域には日頃から、関係を深める働きかけを行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時や買い物時など近隣住民とのかけあいがあります。門に表札をかけ、周囲には芝生や草木を植え、門や玄関(自動ドア)はいつも開錠し、地域に溶け込んだ場所になっている。地域の人たちが遊びに来たり、立ち寄ってくれるよう、日常的に働きかけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の方々とは法人全体での夏祭り花火大会に協賛頂き、運動会や文化祭、防災訓練などに参加して頂いています。慰問行事等にも声をかけて参加を呼びかけ利用者さん達と一緒に楽しんでもらっています。	○	今後は地域住民からの要望により、介護技術の研修などを開催する予定になっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	周辺地域の諸施設から協力を得られ、理解を広げるため働きかけている。災害時の避難場所の提供や、地元住民との共同防災訓練など地元で育てられた施設なので、還元している。買い物等は近隣の商店やスーパーで行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的をよく理解し、個人や事業所の為ではなく、評価が利用者に反映されるべく、改善を図ります。評価の内容、結果を全職員に周知させ、今のサービスの良い所、悪い所を皆で把握して改善していくように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席者には、事業報告や現在のグループホームでの取り組みなどをパワーポイントを作成し、説明している。外部評価で、指摘があった所などは、ケアに活かす為、出席者で、話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を密にとり、包括支援センター、居宅介護支援事業者との情報交換を行い、市町村担当者にグループホームを理解し、支援してもらえるような働きかけを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部から講師を招き、制度の理解を学ぶ機会を設けている。法人での研修に参加し、各個人の研鑽を高める努力をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を行わないということをすべての職員が正しく認識している。身体拘束、虐待のないケアを実践している。外部から講師を招き、学ぶ機会を設け、施設での虐待防止の徹底をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書にて説明を行い、十分理解を得ています。質問、疑問には丁寧に納得行くまで、説明します。重要事項説明書、契約書等に入居者の権利義務を分かりやすく明示している。入居時に十分な時間を使って説明しご家族の理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口となる職員を明記し、家族と利用者にも文書と口頭で繰り返し伝えていきます。利用者からの意見がある場合、引継ぎ、会議で話し合い運営に反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員全員が担当居室を持ち日々の生活をフォローし、健康状態の把握に努めている。金銭の管理は一括して金庫にて預かり、会計帳簿をつけている。家族には面会時など日々の生活を報告し、変化があれば、その都度連絡しています。行事のビデオ、写真の提示をしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、気軽に希望を伝えたり相談できるように、面会時に積極的に家族と関わりをもち、関係を構築している。玄関に、意見伺いボックスを設置し、ご家族の意見を伺っている。窓口の職員を配置し、苦情解決に努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や、申し送り、引継ぎシートへの記入、コミュニケーションをとり、職員の意見を反映しています。理念を形式的なものにせず、日常的に職員が意識して働いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	公休が重ならないように配慮し、利用者や家族の要望に応えられるようにしています。適した勤務のローテーション急な状況変化時には、柔軟に対応出来る様に職員間でのコミュニケーションは怠らない様になっています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の特性を生かし、利用者に適した支援が得られるよう配慮しています。異動の場合は、次ぎの職員にしっかりと引継ぎを行いケアの質が落ちない様にして、利用者のダメージを最小限にしています。同施設内での異動はあるが、異動した職員が時々顔を出してくれています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きやすく、研修の為の時間も確保されています。OJT(On the job training評価表)、学習の動機付け、助言、指導、資料、文献の提供、定期的な勉強会 採用時、フォローアップそれぞれの段階に応じた研修の実施。新人、中堅、ベテランと経験や知識に応じた研修を実施している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広く門戸を開け、施設見学等の同業者との交流。松阪市福祉サービス連絡協議会を開催して同業者との意見交換をしています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	相談しやすい環境を整えています。職員間のレクリエーション活動を実施しています。休憩時間、休息場所の確保がされています。法人主催のスポーツ大会が開催され、他事業者の職員と親睦を深め気晴らしの機会となっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績が評価され、向上心や励みになります。引継ぎ時、会議時に管理者から指導や助言をしており、資料等を提供している。また、定期的な研修会を実施している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者とその家族と密に話し合う機会を入所前に持ち、入所しても普段の生活と変らない様な環境作りや職員のケアを心掛け、本人の意思を尊重した生活を送って頂ける様にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族さんや担当ケアマネージャーさんと情報交換や話し合いをし、不安や希望に対して、その都度解決して安心を持って任せられる様にしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の立場にたち、本人の意思を尊重できるサービスが選択できるよう、情報の提示をする。インフォーマルなサービス、社会資源も視野に入れ活用する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の実施。本人や家族から日常の習慣や特性を聞き出し、「〇〇さんを知るためのシート」や「生活暦」を記入し、なごみを理解して、ケアに生かしている。方言や地域性を理解して支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、礼儀を重んじながらも、感情を表現できるアットホームな雰囲気があります。その人らしい生活、一日の流れを尊重し、介護の場ではなく生活の場となっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の話に耳を傾け、家族の苦労をねぎらう。現在本人に起こっている事を職員だけではなく、家族を巻き込み解決していける様な環境を整えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日を家族と祝ったり、外出時や慰問行事、夏祭りなどは家族さんもお誘いし、利用者と家族と一緒に楽しめる様にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族との文通、電話、面会など利用者が馴染みの関係や場所などとの関係が損なわれない様に支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の共通の趣味や、共同の活動にフォローを入れ、利用者同士のトラブルを未然に防ぐ為、個性の理解をし、協調し合える環境作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	さくら福祉会の行事に参加を呼びかけたり、ボランティアを募ったり地域社会の繋がりを保ちながら関係を継続している。みかん狩りにクリスマス会等に参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、希望に添えるよう努めている。本人の意思確認が困難な場合は、家族の思い、願いも考慮している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「生活暦ノート」「○○さんを知るためのシート」を作成し、今まで関わった人からの情報収集を行っている。馴染みの部屋を再現して、リロケーションダメージの軽減を図っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間シートを活用している。居室担当職員を決め、利用者ひとり一人に適切な生活リズムを把握し、施設全体で常にモニタリングを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議や、申し送り、引継ぎシートへ記入して、職員の意見を反映しています。職員は利用者の声を大切にして、課題の解決を施設職員、家族とアイデアを出し合って介護計画を作っている。家族が訪問する機会には必ず自然の中で介護計画について説明し、意見を聞くチャンスを作っている。	○	ご家族やご友人との繋がりを保って頂く為にも、電話やファクシミリ手紙等の通信を積極的に支援している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しの他、利用者に変化があれば、その都度計画の見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入、パソコンに入力し情報を共有している。様子観察シートを作成しており、日頃変わった事があれば、全職員が記入し、情報の共有をし次の対策やケアに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の特別養護老人ホーム、小規模多機能施設、居宅サービス、協力医療機関と情報交換や、バックアップ機能を生かし、本人や家族のその時々々の要望に応じる事が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が日頃行きたいところ、やりたいことを把握し、墓参りや、故郷の特別な催しに参加できるようにしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	公平なサービスの利用が出来るように、情報の提示をしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や、家族から意向があれば、すぐに適した機関への相談、対応しています。運営推進会議に参加して頂いているので、必要になった方への対応はしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは別の病院での受診を希望される方には家族の協力を得て受診してもらっている。本人の意向や家族の意向に沿える様に職員を配置して、受診をしている。運営推進会議に学識経験者として出席して頂き、関係を構築しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	もちろんの事ながら衣類交換やトイレ誘導等の時には、扉やカーテンを目隠しにし、利用者さんには尊敬と尊厳が保てる様な言葉かけを職員一同心掛けています。個人の記録等は個人ファイルを作成し、事務所に保管、記録の閲覧については電子データに落としこんで、データを保存している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	まずは、傾聴を心掛け、利用者を選択しやすいような質問、選ぶのを待つ時間を設けている。はい、いいえの答えを求めのではなく、その人の言葉で答えて頂ける様な問いかけをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇時間等の過ごし方もご自分で決定して頂いている。居室にて休まれる方や編みものをする方、DVD鑑賞等その人が選択した時間の過ごし方をさり気なくフォローする。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は月1回有志会の方々が、来園して頂いて施行しています。ホームでは毎朝利用者さんに服を選んで頂き、着替えしてもらっています。洗顔・整髪も毎朝の日課です。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを重視し、栄養面や、咀嚼機能も考慮したメニューを考えています。野菜の下準備、盛り付け、洗い物など、その人が得意としている事にアプローチしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	要望があれば、提供していきたいが、開所から現在まで、喫煙者はいませんでした。以前中毒症状だった方がいますので、お酒は控えています。コーヒーやお茶、間食で変化をつけています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	残存機能を最大限に生かしたケアをしています。個人個人の排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導をし、オムツの使用を最小限にしています。排泄表の記入、便秘薬の服用管理などを行い排泄管理を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決まっています。洗身、洗髪、着替えは個々に応じて対応しています。入浴を安らぎの場として提供出来る様に拒否がある方は、その都度誘導しますが、無理強いはしません。プライバシーの配慮(他の人と重ならないように)しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベッドの向き、布団を好まれる方、就寝時間も利用者それぞれです。部屋の照明の調節や室温調節をして安眠出来る環境を作っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を持ち、得意なことを生かせる環境作りをしています。書道教室、手芸、歌、読書 園芸 組みひも等の取り組みをしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを管理している利用者もいます。適切に有意義にお金を使えるよう支援しています。自己管理が可能な方には財布を持ってもらっている。困難な方でも買い物時にお金を渡しご自身で買いたい物を選んでもらったり、支払ってもらおう等して、安心、自信につなげている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物等、頻繁にスーパーに出かけている食品以外で必要なもの、欲しい物がある場合は個別にゆっくり見て周れる機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者と相談しながら月一回の遠足では普段は行けない場所への外出をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を入居者が使用する時は、状況に応じて席を外すようにしている。自由に使っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員から積極的に話しかけ、家族との良い関係を構築している。以前からの友達などがデイサービスに来た折などはグループホームにも遊びに来てくださいます。家族さんの面会もゆっくりと過ごせる様に一番落ち着ける場所を提供しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、研修を行い、OJT評価表にて再認をしています。職員とは半年に一度面談を行っており、その折にも確認を行っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外へ出て行きそうな雰囲気を察知したら止めるのではなくさりげなく、声をかけたり一緒についていく等、安全に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室の窓にはプライバシー保護の目隠しを貼り、職員の見線だけ居室内を観察出来る様になっている。記録をつける際も事務所にこもらず入居者の動きが把握できるようにフローアールでつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は事務所に保管し、薬剤は鍵のかかる場所に厳重に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる危機管理研修に参加して知識の向上に努めている。緊急対応マニュアルがあり、職員で内容をよく理解している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成し対応している。緊急の連絡も落ち着いて出来る様にグループホーム緊急対応手順も用意し対応している。年に1回普通救命救急の研修を開いており、全員が初期対応の訓練を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署指導のもと避難訓練を行っており、避難経路や避難場所を把握している。地域との合同避難訓練も行っており、大災害に見舞われた時には地元との連携もとれている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりにリスクマネジメントをかけ、その人にあったリスクを拾い出し、職員が把握している。リスクの対応として、マニュアルを基本とし、本人に負担のかからない様に支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調に少しでも変化が見られる時にはバイタルチェック、SPO2を測定して状況の把握に努めている。その他入居者の状況を個別記録に記入し情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々の薬の目的を周知しており、正しく服用できるように支援している。薬が変わった時は特に副作用等の把握を慎重に行っている。	○	入居者各人の処方箋が添付された服薬管理表を作成し全職員が薬の内容を把握出来るようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防と運動不足の解消の為、毎朝体操を行っていません。その日の体調、気温等考慮した水分摂取を心掛けています。毎食時は野菜を多めに取り入れ便秘を予防している。水分もコップ一杯は必ず飲んで頂く様に声かけを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のインジゲンでの嗽と嗽が出来ない方には口腔清拭を行っています口腔ケアは入居者本人に任せることが多いが困難な方は状況に合わせて職員が毎食後支援する様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の様子を観察し、食事量を考えている。健康状態や、季節等にも考慮している。一人ひとりの摂取量をチェックし、摂取量を把握している。水分摂取量は特に気をつけている。	○	定期的に栄養の専門的な観点からチェックしてもらっている。(併設施設の栄養士の点検)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体での感染症の研修があり統一した対応ができています。感染症対応マニュアルも作成してあります。この時期には家族さんへの持ち込みの制限はないものの家族への呼びかけも行っています。毎食前後に次亜塩酸ナトリウムで机の消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、冷蔵庫、食品管理等保持するルールがあり、職員間で守られている。熱湯消毒やハイター消毒など		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	常に開錠し、出入りしやすい環境を作っている。ホーム周辺の危険と感ぜられる場所については、カラーコーンを置く等して安全対策をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ティッシュの箱を手の届く場所に置く等、共用空間であっても入居者がその人なりに日用品が使えるようにしている。その月の花を飾っている。食事の匂いが伝わる様にし、生活感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナー・畳のコーナー・テーブルと椅子の場所等それぞれの居場所を工夫し入居者は時々合せて思い思いの場所で居心地よく過ごされるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは一切制限していない。利用者が昔使用していたタンスが持ち込まれて思い出の品が持ち込まれている。以前暮らしていた部屋を再現して慣れ親しんだ物を居室に配置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員の体感に頼った湿・温度の調整ではなく、利用者一人ひとりに合わせて適切かつ、本人が好む湿・温度の調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間でも利用者が迷わずトイレに行けるようにトイレの前の電気だけ一晩中点けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室をクラスター状に配置している。混乱される利用者には、居室ドアに目印となる物を設置している。過剰介護にならないようにしている混乱や失敗をさり気なく援助する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内にプランターを設置し花や野菜を利用者と一緒に育てている。畑では野菜などを育てており、収穫時は利用者と一緒に収穫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったりとした空間に利用者一人ひとりの居場所があり、職員と利用者の関係が近すぎず遠すぎず良い間合いがある。介護ではなく共同生活という事を実践出来ていると思います。